

7 水産業

漁業生産

現 状

- 本海面漁業・養殖業の生産量は、海面漁業が9万トン、海面養殖業が8万トンで、産出額は海面漁業が412億円、海面養殖業が137億円となっています。
- 魚種別の生産量は養殖等によるホタテガイが最も多く、次いでサバ類となっています。
- 内水面漁業・養殖業の生産量は約4千トンとなっており、魚種別ではシジミの生産量が最も多くなっています。

最近の特徴的な取組

- 新漁業法に基づき、資源管理は原則、TAC管理で行う
- 県産品と組み合わせた効果的な宣伝や、漁業者の直売などによる本県水産物の知名度向上と消費拡大の推進
- 内水面・海面における養殖業の推進（サーモンなど）

今後の推進方向

<水産物の安定生産と漁場づくり>

- 重要な水産物の安定的な持続生産
- 漁業者を中心とした漁場環境の保全活動

■海面漁業・養殖業の生産量・産出額（平成30年）

区 作	生産量 (t)	産出額 (億円)
海面漁業・養殖業	175,312	549
海面漁業	90,344	412
養殖業	84,968	137
内水面漁業・養殖業	4,203	

出典：漁業・養殖業生産統計年報

イカ類

平成30年のイカ類の漁獲量は17,931トンで、県内全域で釣りや定置網などで漁獲されています。

ヒラメ

平成30年のヒラメの漁獲量は800トンで、県内全域で定置網、一本釣り、刺網、底びき網などで漁獲されています。

青森県の「県の魚」に指定され、資源管理や種苗放流が行なわれています。

ホタテガイ

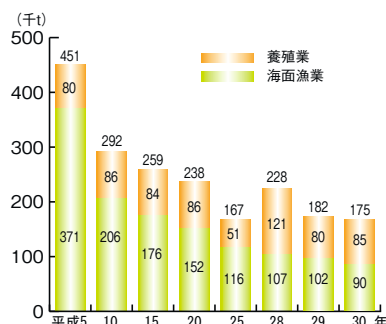
平成30年のホタテガイの生産量は85,473トンで、陸奥湾を中心に養殖や地まき放流で生産されています。

シジミ

平成30年のシジミの漁獲量は2,760トンで、主に小川原湖と十三湖で漁獲されています。

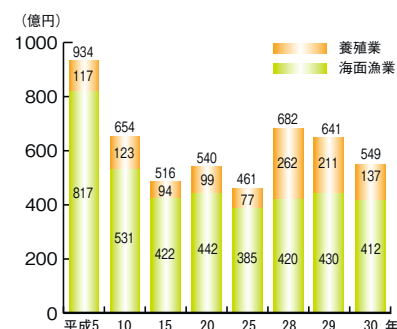


■海面漁業・養殖業生産量の推移



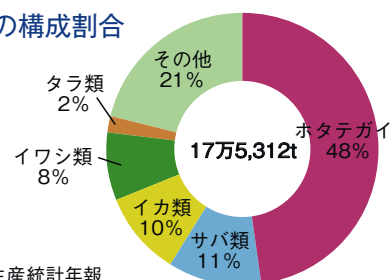
出典：漁業・養殖業生産統計年報

■海面漁業・養殖業産出額の推移



出典：漁業・養殖業生産統計年報

■魚種別生産量の構成割合（平成30年）



出典：漁業・養殖業生産統計年報

資源管理型漁業

現 状

- ヒラメをはじめウスメバル、イカナゴ、マダラなどについて漁獲サイズや重量、操業期間、操業区域を制限することで魚介類の保護を行い、資源を管理しています。

最近の特徴的な取組

- 資源管理・収入安定対策が平成23年4月1日から開始
- 県は資源管理方針（指針）を、漁業者は各種漁業の資源管理協定（計画）を策定

今後の推進方向

<水産資源の適正管理と持続的利用>

- 県資源管理指針に基づき漁業者が策定した資源管理計画による自主的な資源管理の実施
- 栽培漁業、水産基盤整備事業との連携による取組支援
- 魚種に応じたきめ細かな管理手法の試験研究強化
- 遊漁者などへの資源管理意識の啓発

■ ヒラメの資源管理



■ 青森県における資源管理型漁業の主な取組状況（小型魚等再放流関係）

魚 種	管理内容	漁業種類	対象地区・漁協
ヒラメ	再放流（35 cm未満）	沖合底びき網漁業 小型底びき網漁業 定置漁業（底建網漁業） 刺網漁業 一本釣り漁業	全地区
マコガレイ	再放流（20 cm未満）	定置漁業（底建網漁業） 一本釣り漁業	日本海全漁協
マガレイ	小型魚再放流（15 cm未満）	定置漁業（底建網漁業）	
ムシガレイ	小型魚再放流（20 cm未満）	全漁法	日本海全漁協
マダイ	当才魚（0才魚）再放流	定置漁業（底建網漁業）	日本海全漁協
マダラ	放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流	底建網漁業	陸奥湾地区
ウスメバル	小型魚再放流 （日本海110 g未満、津軽海峡90 g未満）	一本釣り漁業、刺網漁業	日本海、津軽海峡地区

つくり育てる漁業

現 状

- サケは県内12か所でふ化飼育を行っており、令和元年度は約4,975万尾を放流しました。
- ヒラメは（公社）青森県栽培漁業振興協会が稚魚を生産しており、令和元年は132万尾を放流しました。
- 陸奥湾のホタテガイをはじめ、コンブ、ホヤ、ワカメなどの養殖も行われています。
- 水産生物の生育環境を整備するため、藻場礁や魚礁などを海底に設置しています。

最近の特徴的な取組

- 持続可能なホタテガイ養殖の推進
- サケ、ヒラメの放流効果向上のための技術開発の推進
- ホタテガイ貝殻を敷設し、ナマコ増殖場を整備
- ウスメバル等の移動習性に対応した、沿岸から沖合までの一体的な漁場施設の整備

今後の推進方向

<積極的な水産資源の増大>

- 本県の海域特性に適合した新たな栽培魚種の研究・開発
- 健全な種苗の生産と適期放流の推進
- 種苗生産、中間育成施設の整備
- 造成された漁場の効果調査と機能の維持管理

■養殖生産（平成30年）（単位：t）

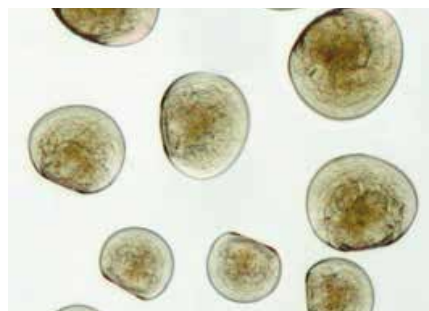
種 類	収穫量
ホ タ テ ガ イ	84,279
ホ ヤ 類	540
ワ カ メ 類	52
そ の 他	97

出典：漁業・養殖業生産統計年報

■栽培魚種（平成30年）（単位：t）

種 類	収穫量
サ ケ 類	3,945
ヒ ラ メ	800
ウ ニ 類	510
ア ワ ビ 類	35

出典：漁業・養殖業生産統計年報



ホタテガイの幼生



サケのふ化仔魚

※参考 成長の度合いによる魚の呼び名
卵→仔(し)魚→稚魚→幼魚→成魚



魚礁に集まるウスメバルの幼魚



ヒラメ稚魚放流

漁港・漁場づくり

現 状

- 県内には、795kmの沿岸に85の漁港があります。
- 漁港内には、防波堤、岸壁のほか、荷捌き所などを整備しています。
- 水産資源の増大を図るため、藻場等の増殖場や魚礁漁場を整備しています。

最近の特徴的な取組

- 水産物の高度衛生管理に対応した漁港施設の整備
- 近年の波高増大に対応した漁港施設の機能強化対策
- 水産生物が成長課程で移動する習性に合わせて藻場等の増殖場や魚礁漁場を沿岸から沖合まで一体的に整備

今後の推進方向

<水産物の安定供給に向けた漁港漁場整備の推進>

- 漁港施設の基盤整備や長寿命化対策を計画的に推進
- 漁港の防災・減災対策の推進
- 沿岸の水産資源増大に向け、藻場等の増殖場や魚礁漁場を沿岸から沖合までの一体的整備を推進
- 水産物の衛生管理対策の推進

■ 漁港漁場整備事例



高度衛生管理に対応した荷捌き所の整備
(三沢漁港)



主要道路へアクセスする臨港道路
(白糖漁港)



既存防波堤の嵩上げによる越波防止対策
(小泊漁港)



育成場集まるウスメバル
(風合瀬漁場)